

藤原宮跡・藤原京跡の発掘調査

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1990年度、飛鳥藤原宮跡発掘調査部では、藤原宮跡については内裏東外郭・東方官衙地区、西方官衙地区を中心に6件、藤原京跡では右京一条一坊・二坊、右京七条一坊、左京四条三坊、本薬師寺などで12件の調査を実施した（17頁参照）。以下、主要な調査の概要を報告する。

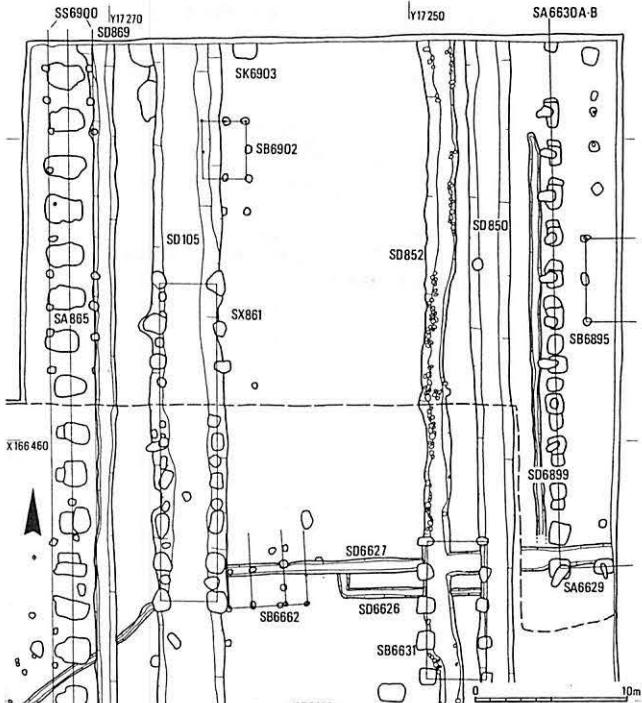
1. 藤原宮跡の調査

内裏東外郭・東方官衙地区の調査（第61次）

この調査は藤原宮の大極殿院・内裏の東外郭と、東方官衙地区の様相を明らかにするため、第58次調査に引き続いて行ったものである。検出遺構は弥生時代から中世にいたるが、藤原宮期と平安時代が主なものである。

藤原宮期の遺構 調査区の西端の南北塀 SA865は大極殿院・内裏の外郭の東を限る塀である。このSA865の東西両側には、3m間隔で対応する2条の柱列がある。外郭塀 SA865に伴う足場穴とみることができる。柱間寸法は約2.25mで、柱掘形は一辺約0.4mである。SA865の東約3mの溝 SD869は、塀 SA865の雨落溝の可能性もある。南北溝 SD105は最大幅5m・深さ0.7m、藤原宮東半地域の基幹排水路。橋脚状遺構 SX861はSD105の南半の両岸にある柱穴で、規模からみても橋とは考え難い。SD850は南北溝で、東方官衙地区の西を限る溝である。SD105と同様に最上層は埋め立てられている。

西側のSD105との間は約17mの宮内道路と考えられる。調査区の東端の南北塀 SA6630Bは南北に3個並ぶ官衙ブロックのうちの中央の区画の西を限る塀である。柱間寸法は約2.75m等間で、北端では柱間が1つとんで広くなる。柱掘形は一辺1mをこえる。中央の官衙ブロックが東西66m・南北72mの規模であることは第58次調査などで確認されていたが、柱間の広くなった場所はSA6630Bの南北のはほぼ真中にあたっており官衙の西の出入口の可能性が高い。塀の西1.2mにある幅0.8mの南北溝 SD6899はこの塀の西側の雨落溝と



第61次調査遺構配置図（1:500）

考えられる。また、南北塀 SA6630A は SA6630B と重複し、先行する塀で、柱痕跡がない。SA6630A は柱掘形は掘ったものの、計画変更により、柱を建てる前に埋め戻されたものか。建物 SB6895 は SA6630 の東 2 m にある梁行 2 間の東西棟で、今回その西妻柱筋を検出しただけであるが、SA6630B と柱筋を揃えるため、官衙ブロック内の建物と考えられる。

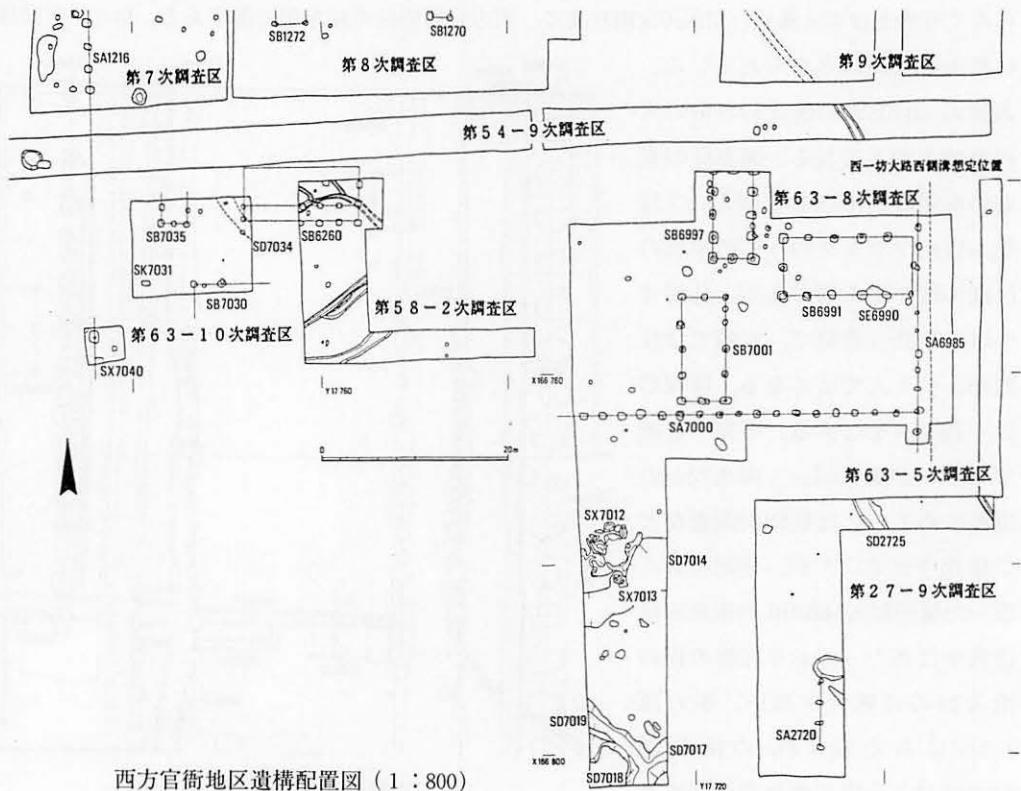
平安時代の遺構 溝 SD852 は幅約 2 m・深さ 0.5 m の南北溝で、その両岸は人頭大の自然石で粗く護岸している。SD105 の東岸の南北棟建物 SB6902 は 2 間 × 2 間の小規模な建物である。

遺物 瓦・土器・木器・木筒・金属製品・石製品があるが少量である。土製品には円面硯・土馬がある。金属製品には金銅製の鈴がある。木筒は溝 SD105 から 24 点、SD850 から 32 点出土。

まとめ 今回の調査の結果、内裏東外郭の東で南北に 3 個並ぶ官衙ブロックのうち、中央ブロックでは西を限る塀には立て替え、もしくは計画変更があることが重複関係から確認することができた。この塀の南北のほぼ中央には、柱間が広く、出入口と想定できる場所が確認できたことも大きな成果とすることができるよう。

西方官衙地区（第63—2・5・8・10次）

第63—5・8・10次調査 鴨公小学校の南に接した地域の調査である。東西塀 SA7000 は、第 5 ~ 7 次調査で検出した宮内先行条坊に伴う東西塀 SA1215 と、59 m (200 尺) を隔てる。これに接続する南北塀 SA6985 は SA1215 の西端に接続する南北塀 SA1216 と 97.5 m (330 尺) を隔て、今



回検出した10間分の内、北6間の柱間2.25m（7.5尺）は、SA1215のそれと同じである。SA6985とSA7000は、SA1215・1216と一連の遺構であり、藤原宮直前の先行条坊と関連した区画施設と推測できる。SA6985の東約2mには、先行条坊の西一坊大路西側溝の存在が推定されるから、この区画は北を先行条坊五条条間路、東を西一坊大路に接した、東西330尺×南北200尺の区画に復元できる。この時期の他の遺構としては、区画内に東西棟建物SB6260、南北棟建物SB6997・SB7035、井戸SE6990がある。

藤原宮西方官衙の遺構にはSB6991、SB7001、SB7030がある。東西棟建物SB6991と南北棟建物SB7001は、柱筋を揃え、両者の間隔が20尺という完数で割り付けられている。これらの建物はSB7030が柱間10尺とする以外は小規模なものであり、西方官衙地区には長大な建物のほかにこのような小規模建物も付随していたことが明らかにできた。

弥生時代の遺構は、四分遺跡の一部をなすものと推定されるが、溝SD7017～7019は、この遺跡の集落地区の北限を画す環濠の可能性がある。

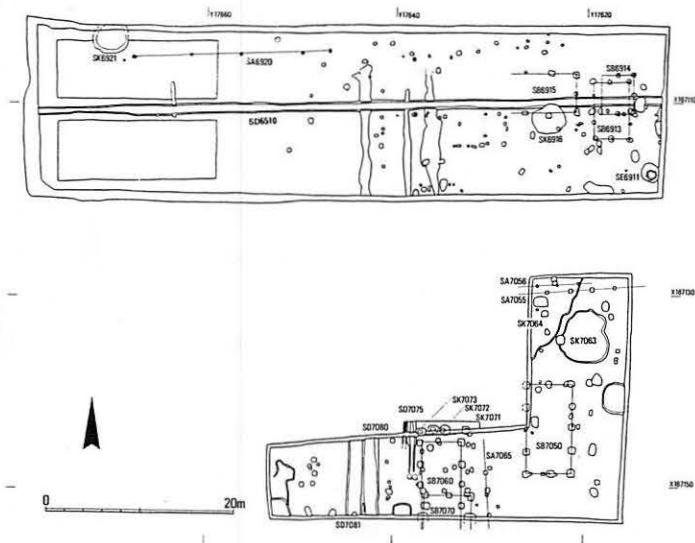
第63-2次調査 調査地は藤原宮の西北部にあたるが、藤原宮期の遺構は削平されており検出されなかった。一方、14世紀の溝SD6880が、60m西北の第27-6次調査で検出した14世紀後半の溝や通路と共に、一つの集落を構成する可能性があり注目される。中世集落の環濠は淨御原宮推定地（概報11）・第41-15（概報16）・47（概報17）・60-8次調査（概報20）でも検出しており、廃都後の土地利用の重要な資料である。

2. 藤原京跡の調査

右京七条一坊（第63・63-4・6・12次）

第63・63-12次調査 七条一坊西北坪にあたる。第63次調査は第62次調査地の西北で行い、六条大路南側溝の可能性があるとされた東西溝SD6510の西延長部を確認するのが主な目的である。

東西溝SD6510は、幅約1m・深さ約0.3mで、第62次調査区から総延長120mを検出した。溝は六条大路南側溝の想定位置の約5m南に位置し、また、振れは西で南へ約1°という調査地周辺の条坊の振れと比較すると大きい数値を示す。それらの点から六条大路の南側溝とするには若干の疑問がある。なお、この溝をは



さんで小規模建物3棟(SB6913・6914・6915), その東南に井戸1基(SE6911)がある。

第63-12次調査は第63次調査区の南, 第62次調査区の西で行い, 藤原宮期前後的小規模な南北棟建物(SB7050・7060・7070), 溝(SD7080・7081)や土坑(SK7071・7072・7073等)などを検出した。南北溝SD7080は第62・63次で検出した東西溝SD6510より新しい溝で, この西には藤原宮期の遺構は無い。この溝は坪内を東西に3ないし4つに区分する溝の一つであって, 西一坊大路に面した区画は空閑地であったと考えられる。また, 建物周辺の土坑群から出土した多量の木簡の削り屑には歴名が多くみられ, この坪が通常の宅地でない可能性を示唆する。

西北坪は, 六条大路に近い部分及び西一坊大路に接する部分を除いては, 溝や塀で3ないし4つに区切られ, その中は小規模な建物や土坑・井戸などで構成される。これは大規模な建物を坪の中央部に整然と配置した西南坪が一坪全体を占める邸宅と考えられているのとは異なる利用形態である。宮に直接接する地域での土地利用の一つのあり方を示すものかも知れない。宮に接する地域の東辺と西辺では大規模な宅地の存在が知られるが, 北辺は空閑地に近い状況であり, 南辺も同様の状況なのであろうか。坪中央部が未調査であり, その利用形態やその性格については, なお不明な点も多い。今後の調査の進展を待ちたい。

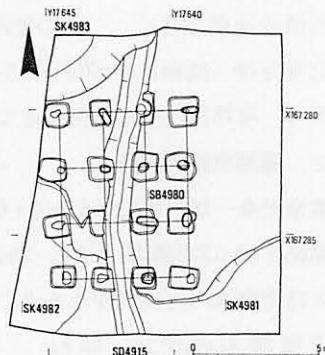
第63-4・6次調査 右京七条一坊西南坪にある。この坪では, 第19(概報7)・49(概報17)次調査の結果, 坪内全体を占める大規模な邸宅遺構の存在が明らかとなっている。

第63-4次調査地は邸宅内を内郭・外郭に区画する南北塀SA1997の東側で, 幅3m以上の南北大溝SD6890を検出し, 藤原宮期および若干遡る土器が出土した。この溝は, これまでの北方の調査区では検出しておらず, 今後の調査が必要である。

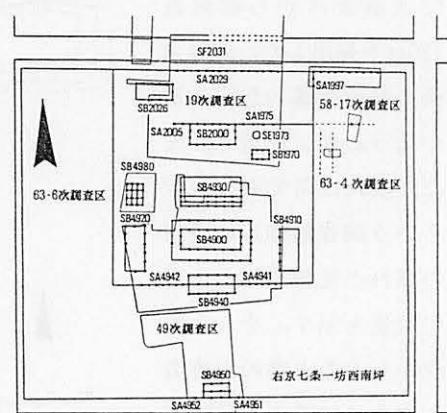
第63-6次調査地は, 第19次調査区の西南, 第49次調査区の西北に接し, 後殿SB4930の西側にあたる。3間×3間の南北棟総柱建物SB4980を検出した。柱間寸法は南北約2.2m・東西約1.7m等間である。柱掘形は一辺1mの方形で, 西側柱北第2柱穴には径約30cmの柱根が, 人頭大の礎盤の石上に残る。他の柱穴にも同様な石が確認できた。SB4980は, 後殿SB4930の西約12.5m, 西脇殿SB4920の北約8mの位置にあり, SB4930とSB4920に柱筋を揃えており, 後殿の脇殿風に倉庫が建てられたものと考えられる。

右京一条一坊・二坊(第64次・65次)

第64次調査 榛原市醍醐町における土地区画整理



第63-6次調査遺構図(1:300)



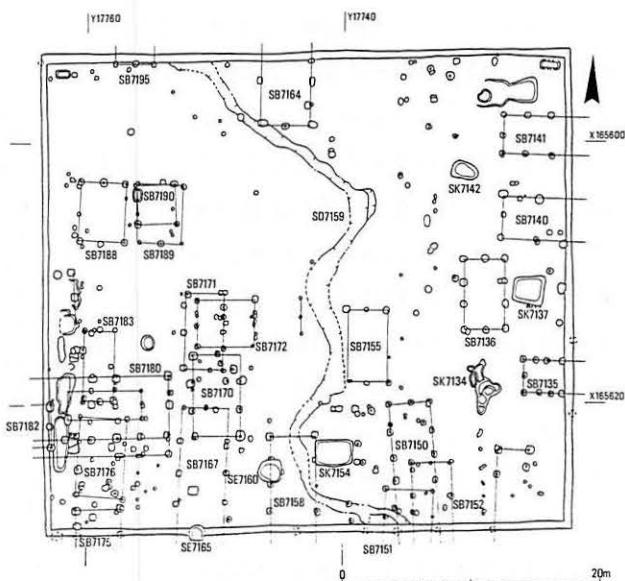
右京七条一坊西南坪遺構配置図

事業に伴う事前調査である。調査地は右京一条二坊で、西南・東北坪の大半と、西北・東南坪の一部に及ぶ。このため、条坊道路と坪内の状況把握のため10ヶ所の調査区を設定した。

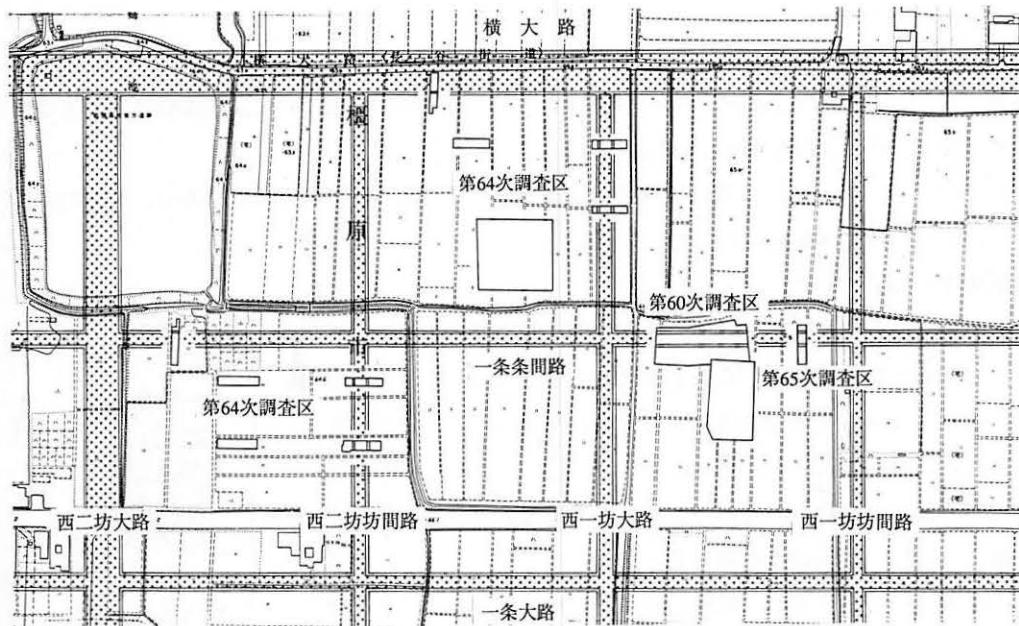
条坊遺構 横大路・西一坊大路・西二坊坊間路・一条条間路を検出した。横大路は南側溝幅1.1m、深さ0.35mである。西一坊大路は路面幅6.5m、両側溝の幅は0.9mである。一条条間路は幅1mの北側溝を検出した。西二坊坊間路は両側溝を検出し、路面幅6m、東側溝は幅1.5m、西側溝は幅0.5~1.1mである。

坪内の遺構 西南・西北・東南坪では、井戸・土坑を検出し、東北坪の南半中央部では、小規模な掘立柱建物27棟・塀3条・井戸2基・土坑を検出した。建物は3時期以上あり、藤原京の北辺地域でも小規模な建物が藤原宮期前後にわたって建てかえられていることがわかった。

第65次調査 店舗建設に伴う事前調査で、右京一条一坊西南坪にあたる。調査は第60次調査区の東方約30mに



第64次調査遺構配置図（1：600）



第64・65次調査位置図（1：4000）

東区、東南に接して西区を設定した。第60次調査では一条条間路を50mにわたって検出しており、今回の西区でも両側溝を検出した。路面幅5.3m、北側溝幅1.6m、南側溝幅1.3m、深さはいずれも約0.3mである。東区では建物5棟・東西塀1条・井戸3基・土坑などを検出した。建物は4間×2間が最も大きく、いずれも小規模なものである。建物の数が少なく、小規模であるが井戸は3基あり、いずれも改修が認められ、奈良時代前半（平城宮土器Ⅱ）までの土器が出土している。宅地班給面積との関連も考えられる資料である。

左京四条三坊（第63—7次） 調査地は東北・西北の坪にまたがっており、三坊坊間路とその東西の宅地利用状況を明らかにすることを主たる調査目的とした。藤原宮期の遺構は重複関係によってA期、B期に分けることができる。

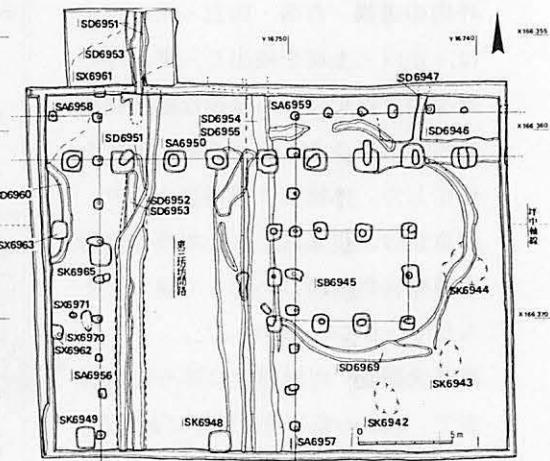
A期 東三坊坊間路 SF4300と、掘立柱塀 SA6956・6957・6958・6959がある。坊間路の側溝は何度か掘り直されており、西側溝が3本、東側溝が2本ある。SA6956とSD6951、SA6957とSD6954の心心距離がそれぞれ等しく、これらの南北塀と溝が組み合うようである。東三坊坊間路の路面幅は約5.6～5.8m、側溝間の心心距離は約7.0～7.1m。東西塀 SA6958・SA6959は柱筋が合う。各坪内をさらに南北に分ける施設であろう。

B期 A期の坊間路および区画塀を廃して、東北・西北の坪の両方をひとつにした宅地割へと変化した。SA6950は柱間2.6mの東西塀で南北二等分線近くに位置する。SB6945は3間×2間の東西棟で、柱間は桁行・梁行とも約2.4m等間である。

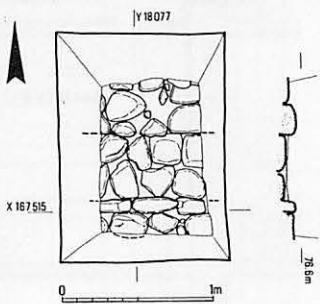
今回の調査では、特にA期の1坪を田の字形に四等分する従来の土地利用から、B期の東西2坪にまたがる宅地利用へと変化するという1例を得た。

本薬師寺（1990—1次）

調査地は、金堂跡基壇上に建つ庫裏北側、基壇の北辺中央付近である。小面積の調査ながら、基壇周囲の玉石組雨落溝と石敷を検出した。東西方向の雨落溝は人頭大の石を両側に立て並べ、底にも同様の石を敷く。内法で幅0.5m、深さは約0.1m、石敷と溝の底石の比高差は約5cmである。溝の中には瓦を含む砂層が薄く堆積していた。石敷はこの溝の北と南に広がるものであり、やはり人頭大の石を敷き並べ、隙間に小さな石をはめ込む。出土遺物には創建～奈良時代末の軒瓦13点、熨斗瓦3点、鬼瓦1点があり、



第63-7次調査遺構配置図（1:400）

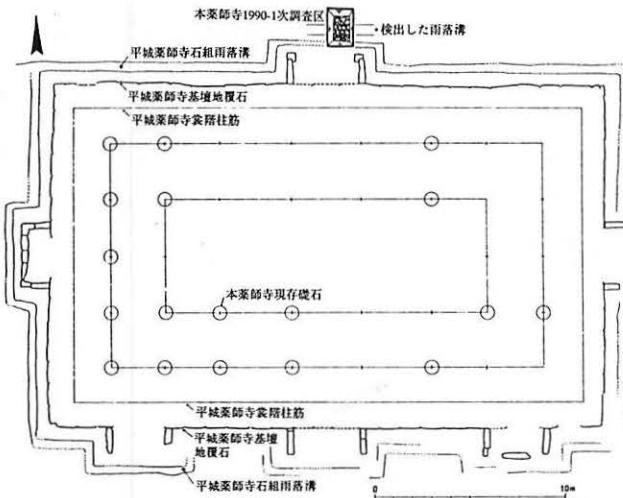


本薬師寺調査遺構図（1:50）

金堂裏階に葺いたと考えられる小型軒瓦もある。奈良時代の軒瓦は平城薬師寺・平城宮と同范品であるため、奈良時代も依然官寺として維持管理されていた可能性もある。

今回検出した雨落溝は階段の北を巡る位置と思われるが、平城薬師寺と比較すると北肩で約1m北、つまり外側にある。さらに、平城薬師寺では、雨落溝の幅が基壇周囲では約0.5mあるのに対し階段位置では約0.3mと狭くなるが、今回検出したものは約0.5mと広い、など違いもある。このように、本薬師寺金堂は平城薬師寺と同じく基壇周囲に石敷と石組の雨落溝が巡っていることが明らかとなったが、その雨落溝の位置は平城薬師寺のそれよりさらに外側に位置して今後に検討課題を残すことになった。

(安田龍太郎・深沢芳樹)



本薬師寺1990-1次調査位置図(1:400)

| 調査地区 | 遺跡・調査次数 | 調査期間 | 面積 | 備考 |
|------------|---------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 6AJF-C・D | 藤原宮 61次 | 90.4.25~90.8.29 | 1100m ² | 宮内裏東外郭・東方官衙 |
| 6AJH-R | 藤原京 63次 | 90.3.27~90.5.16 | 1270m ² | 右京七条一坊西北坪 |
| 6AJQ-A・B | 藤原京 64次 | 90.11.27~91.4.4 | 2600m ² | 右京一条二坊 |
| 6AJS-S・T・U | | | | |
| 6AJP-P・Q | 藤原京 65次 | 91.2.12~91.3.28 | 1126m ² | 右京一条一坊西南坪 |
| 6AJJ-B | 藤原京 63-1次 | 90.4.3~90.4.9 | 60m ² | 二条大路 |
| 6AJF-Q | 藤原宮 63-2次 | 90.4.9~90.4.11 | 36m ² | 宮西方官衙 |
| 6AJQ-E | 藤原京 63-3次 | 90.4.23~90.5.31 | 547m ² | 右京九条三坊東南坪・二条大路 |
| 6AJH-U | 藤原京 63-4次 | 90.5.21 | 12m ² | 右京七条一坊西南坪 |
| 6AJG-R・S・T | 藤原宮 63-5次 | 90.5.21~90.5.24 | 152m ² | 宮西方官衙 |
| 6AWH-P | 藤原京 63-6次 | 90.7.13~90.7.25 | 120m ² | 右京七条一坊西南坪 |
| 6AJB-J | 藤原京 63-7次 | 90.7.13~90.9.1 | 500m ² | 左京四条三坊東北・西北坪、東三坊間路 |
| 6AJG-R・S | 藤原宮 63-8次 | 90.8.10~90.10.22 | 1262m ² | 宮西方官衙 |
| 6AJP-M | 藤原京 63-9次 | 90.11.26~90.11.29 | 48m ² | 二条条間路 |
| 6AJG-R | 藤原宮 63-10次 | 90.12.11~90.12.21 | 146m ² | 宮西方官衙 |
| 6AJJ-B | 藤原宮 63-11次 | 91.1.10~91.1.16 | 82m ² | 宮西北隅 |
| 6AJH-S | 藤原京 63-12次 | 90.12.25~91.2.22 | 580m ² | 右京七条一坊西北坪 |
| 6AJB-B | 藤原京 63-13次 | 91.3.18~91.4.3 | 135m ² | 左京四条四坊東北坪 |
| 6AMC-N | 山田道 第3次 | 90.10.1~90.11.27 | 820m ² | 山田道推定地 |
| 6AMH-F | | | | |
| 6AMD-H | 山田道周辺 1990-1次 | 90.4.12~90.4.13 | 7m ² | 山田道推定地 |
| 6AMD-R | 石神遺跡 第9次 | 90.7.16~91.4.8 | 1200m ² | 飛鳥淨御原推定地 |
| 6AMD-T | 石神遺跡 1990-1次 | 91.1.28~91.2.15 | 60m ² | 飛鳥淨御原推定地 |
| 5BST-A | 坂田寺第6次 | 90.5.28~90.8.9 | 275m ² | 仏堂・回廊 |
| 6BMY-C | 本薬師寺 1990-1次 | 90.8.8~90.8.9 | 3m ² | 金堂北辺 |
| 5BYD-L | 山田寺第8次 | 90.8.27~90.12.19 | 800m ² | 回廊東北隅・宝蔵・西門 |

1990年度 飛鳥藤原宮跡発掘調査部調査地一覧